

園だより 5月

子供たち、主に結ばれている者として両親に従いなさい。それは正しいことです。
エフェソの信徒への手紙 6章 1節

新緑がまぶしい時節がやってきました。鮮やかな緑に囲まれて過ごすこれからのとき。どんな心もちで子どもたちの毎日が展開されることでしょうか、楽しみです。

4月の1ヶ月を幼稚園で過ごした子どもたち。一つ大きくなった自分の力を感じながら、新年度という心の揺れも感じ過ごしていた年中長組の子どもたち。初めての小さな社会の中で自分の居場所を見つけながら魅力ある新しい環境に小さな心と体を精一杯動かし過ごしていた年少組の子どもたち。その日々は子どもたちの様々な心もちに溢れていました。そして保育者たちはその心もちに寄り添い共感しつつ子どもたちの新年度ならではのエネルギーに感動を覚えたひと月となりました。日々の園生活の中、子どもたちの心もちを大切に過ごしたいと切に願い子どもたちと向き合う保育者たち。先日、研修会で紹介された倉橋惣三先生が書かれておられた「こころもち」の文章に、改めてその重要さを痛感し、心を新たにしました。保護者の皆様にも共有させていただきたく思いました。

「こころもち」

「子どもの心もちは、極めてかすかに、極めて短い。濃い心もち、久しい心もちは、誰でも見落とさない。かすかにして短き心もちを見落とさない人だけが、子どもと俱にいる人である。多くの人が、原因や理由をたずねて、子どもの今の気持ちを共感してくれない。結果がどうなるかを問うて、今の、此の、心もちを諒察してくれない。その子の今の心もちにのみ、今のその子どもがある。(1932年「幼児の教育」第32巻、第5号)

90年も前の文章ですが、今読んでも何ら違和感なく感銘を受ける文章ではないでしょうか。いわゆる戦前の時代から、子どもたちの「真の育み」の為の幼児の教育について倉橋先生は語っておられたのです。本当に大切なこと、大切な思いは時代が変わっても変わるものではないことを再確認させていただきました。子どもたちを取り巻く目に見える世の中の状況はめまぐるしく変化し続けています。共感し沿うことが大切な変化もあることは認識しております。けれども意識して変えない「真」を見据え続けることを決して怠ってはならない、と改めて心に強く思っております。

保護者の皆様と共に、子どもたち一人ひとりの極めてかすかに、極めて短い心もちに共感しながら心地よい5月を過ごして参りたいと願います。

宜しく願い申し上げます。

園長 駿河 幸子